

Project D02	地域教育専攻 Enjoy Study プロジェクト ～せかいとこんには～
メンバー	[学生] 松山 聖奈 / 齊藤 和也 / 目黒 凜々花 / 高橋 幸聖 / 萩原 風季 [担当教員] 石森 広美
<p>【背景】 北海道教育大学のデータより加速するグローバル化に対応できる人材を育てること、「函館市の教育の現状について」より全体的に学力が低下傾向にあることが課題としてあげられた。そこで外国語を通して、新しいことを学ぶことの楽しさを覚え、これからの学習意欲の向上につなげることができるような活動を実践した。</p> <p>【目的】 ・外国語や新しいことを学ぶことの楽しさを感じ、これからの学校での学習意欲向上につなげる。 ・活動を通して、関わりの少ない人とコミュニケーションを取ろうとする意欲を高める。(後期の活動より追加)</p> <p>【概要】 前期では、外国語の言葉や新しいことを学ぶことの楽しさを感じてもらうために、主に外国語や外国の音楽を使った活動を行った。 後期では、前期の活動の反省として出た「性別ごとや特定のグループに分かれてコミュニケーションをとってしまう」という課題に対応するため、上記目的に加え、グループ分けのやり方を工夫するなど、児童同士のコミュニケーションを前期以上に多くして活動を行った。</p>	
<p>【プロセスと成果】</p> <p>★前期は、外国語や外国の文化に触れ、親しむことを中心に活動した。</p> <p>第1回は、「じゃんけんを通して海外の文化に親しむ」ことをねらいとして活動を行った。英語・韓国語・中国語・スペイン語・フランス語の5カ国語のあいさつに触れ、じゃんけん列車を通して積極的に発音することを実践することができた。</p> <p>第2回は、「日本語以外にも、たくさんの言葉があることを知ってもらう」ことをねらいとして活動を行った。いろいろな国の動物の鳴き声を使ったクイズで異文化に親しむことを目的としていたが、クイズが長く、難しかったため当てずっぽうになってしまい、児童に飽きている様子があったと反省で挙げられた。</p> <p>第3回・第4回は、「これまで学んできたことを使いながら、体を動かして、外国の音楽で遊び、文化に慣れ親しむ」ことをねらいとして活動を行った。第2回の反省を生かし、体を動かす活動にしたことで飽きずに取り組むことができていた。音楽に合わせて楽しく踊りながら多言語に触れ、児童から学ぼうとする主体的な姿勢が見られた。この活動からじゃんけんや挨拶を児童自らする様子が見られるようになった。</p> <p>★そこで、後期は、前期で親しんだ外国語をもとにゲームを楽しむことを中心に活動した。</p> <p>後期第1回は、「ゲームを通して世界のじゃんけんに親しむ」ことをねらいとして活動を行った。児童が自発的にいろいろな種類のじゃんけんをする様子が見られた。特に、新しく取り入れたタガログ語のじゃんけんに興味を示し、積極的に発音する様子が見られた。</p> <p>第2回は、「多言語での果物の言い方を知り、発音して単語に親しむ」ことをねらいとして活動を行った。新しく出てきた果物の名称を多言語で、ゲームを通して楽しく発音している様子が見られた。</p> <p>第3回は、「これまでに親しんだ単語を使ってゲームを楽しむ」ことをねらいとして活動を行った。これまで習った単語を使ったカルタをしたが、取れる枚数の差にかかわらず楽しんで活動している様子が見られた。また、読み手をやってみたいという声もあり、児童の活動への積極性も確認することができた。</p>	

第4回は、「すごろくを通して、体を動かしたり声に出したりして外国語に親しむ」ことをねらいとして活動を行った。これまで触れた外国語を、マスの指示に従って楽しんで発音していたほか、クイズのマスで行った異文化理解クイズを、もっとやりたいという声も上がった。

第5回は、「各国のクリスマス文化の違いを体験する」ことをねらいとして活動を行った。第4回でのクイズの反応が良かったため、クリスマスに関わるクイズをしたが、答えに非常に興味をもち、「どうして?」と聞き返すような様子がたくさん見られた。また、多言語での「メリークリスマス」も楽しく発音していた。

【みんなで外国語かるたをしている様子】



【最後のクリスマス会の様子】



【総括と反省・今後の課題】

前期では、外国のじゃんけんや音楽に触れる4回の活動を通し、外国語の様々な音に触れることで好奇心が刺激され、新しいことを知る活動に意欲的な様子が見られた。ただ活動によって、児童の反応や盛り上がりには差が生まれていた。後期では、かるたやすごろくなど外国語の言葉のゲームといった5回の活動を通し、児童自らが何度も復唱し、自発的に言葉を発する様子が見られた。また異文化を紹介した3択クイズを取り入れると、「なんで?」「もっとクイズやりたい」など異文化に興味関心をもって質問する姿も見られた。これは、これまでの活動で様々な言葉や音楽に親しんだことで、異文化をイメージしやすくなる見方、考え方を育てられたからではないかと考える。

全体の活動を通して、大学生が介入しなくても、児童同士で世界の言葉を活用する積極性が出てきたため、目標である学習意欲及びコミュニケーションを取ろうとする意欲を高められたと考察する。これらの様子から、低学年であっても多言語多文化に親しむ意義があると考え。しかし1年生を対象とする活動は、児童の実態に即した活動を行うことを常に意識しなければならない。実態の把握不足により、教材の難易度が児童のレベルに合っておらず、時に活動に消極的な児童が複数見られたので、児童の実態に即し、その都度活動の内容を修正したりアップデートしたりすることが必要であり、その点が今後の課題である。

【地域からの評価】

ポスターセッションを通して、他の学生や地域の方々からは、「難しく思われがちな外国語でも、ゲームなどを通して触れることで、低学年でも楽しく親しむことができる活動にしている」点に多くの評価をいただいた。他にも、「前期での活動が後期でも活かされていることでその場限りの学びにならず印象に残るような活動だと思う」という意見や、「教え込みではなくクイズや活動、ダンスを交えて親しませている工夫が素晴らしい」との声もいただいた。

また、本プロジェクトはプロジェクト終了後にも市内の学童保育所に依頼を受け、地域貢献としての活動も行い、好評を得た。児童や先生方からは、知らない言葉や文化をたくさん知ることができて楽しかった、また来てほしい、といった感想や児童からのお手紙をいただき、メンバーの充実感につながった。

【年間スケジュール】

■前期

- 5月24日 第1回
「いろいろなあいさつとジェスチャー」
- 6月7日 第2回「いろいろな音と言葉に触れよう」
- 6月21日 第3回「いろいろな音楽とリズム遊び」
- 7月5日 第4回「いろいろな歌」

■後期

- 10月25日 第1回
「世界のじゃんけんを体験しよう！」
- 11月8日 第2回「ハーヴェストを体験しよう！」
- 11月22日 第3回
「くだものじゃんけんかるたをしよう！」
- 12月6日 第4回「世界一周旅行！」
- 12月20日 第5回「世界のクリスマスに親しもう！」